



NPO救命おかやま 会報



Vol. 38

2023. 1. 5 発行



祝：厚生労働大臣表彰受賞

特定非営利活動法人 NPO 救命おかやまは、

「令和 4 年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞いたしました。



2001 年 9 月、医療者への心肺蘇生教育を目的に、現在の NPO 救命おかやまの前身である「ACLS 岡山」を発足、2001 年 11 月岡山県内の医療者に対して「第 1 回 ACLS 岡山コース」開催を皮切りに、ICLS コース・外傷初療 JPTec コース開催を県内・県外で開催、その後 2006 年 7 月に、特定非営利活動法人「NPO 救命おかやま」を設立し、ISLS・AHA・INARS・MCLS コースも加わり、多数のコースを毎年開催してまいりました。

NPO を設立以降は、年 1 回の総会、年 3 回の理事会開催により円滑な運営を進め、イベント活動として、年 1 度の無料「市民のための救命講習会」を開催、おかやまマラソン協働事業として現在も継続、また、おかやまマラソン開始より AED 医療救護班を担当してまいりました。

協働事業として、岡山県備前県民局協働事業を実施し「夢づくり推進賞」を受賞、おかやまマラソン協働事業として救命講習会開催、支援事業として、チャリティー救命講習会 with 有森裕子など、多くの事業を展開してまいりました。

学術活動といたしましては、多数の学会発表を行うほか、2009 年に財団法人日本救急医療財団主催「AED 普及・啓発シンポジウム」を実行委員として企画し岡山で開催、2014 年には京都国際会議場にて「第 7 回日本蘇生科学シンポジウム (J-Res)」を実行委員として企画・運営に携わりました。

2012 年にはミャンマー初の AED を NPO 救命おかやまより寄贈、ミャンマー医学会総会での講演と医科大学や看護大学にて救命講習会を 3 年にわたり行うなど、国際的な活動も繰り広げてまいりました。

こうした活動を認めていただき、2019 年には「岡山県知事表彰」をいただきました。

この度の厚労大臣表彰申請の際、今までの活動をまとめましたところ、2001 年～2022 年 5 月までの活動の総数は、開催回数延べ 654 回、受講者数 24,543 人、インスト数 18,111 人にも及びます。AHA・INARS コースは現在 NPO としての開催は行っておりませんので今回の数には入れておりませんが、NPO として共に行っていた活動時の数をカウントするとさらに多くの開催回数や参加人数になります。

多くの方々と共に歩んでまいりました活動の一つ一つがこの度の受賞につながりました。

この度の賞を推薦して下さいました岡山県医師会様、役職顧問としてお力添え下さった岡山県医師会様、岡山県歯科医師会様、岡山県消防長会様、NPO 救命おかやま賛助会員・正会員・活動会員の皆様、前身の ACLS おかやま及び NPO 救命おかやまの活動に関わり、ご協力・お力添えくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

会員の皆様、おめでとうございます。そして、ありがとうございます。

今後もこの賞を励みに、できる限り活動を継続していきたく、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様、新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局長：岡本知子記)



岡山県医師会主催祝賀式にて(2022.12.5)



岡山県医師会長にご挨拶(2022.12.16)



2022 年第 2 回理事会にて(2022.12.16)



1. ご挨拶

渡辺病院 理事長 遠藤 彰 (NPO 救命おかやま理事)

現在コロナ禍は第8波に突入したとも言われ、with コロナの生活も3年が過ぎようとしていますが、会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。私にとって、コロナ前の生活との大きな違いは、飲み会と講習会です。飲み会は規模と頻度が大きく減り、身体と財布にやさしい日々となりました。講習会はオンラインが増え、職場や自宅で受けることができ便利になりました。このように良い面もあり、新しい生活様式としてエンジョイしています。



しかし、一方で悪い面も感じます。特に大きいのは対面コミュニケーションが減ったことです。飲み会に限らず、対面コミュニケーションからは語り手の情熱や鮮度の高い非公式な情報が得られ、それによって元気をもらったり、仕事の精度が上がったり、新しい取り組みにつながったりします。自分自身を振り返ると、飲み会が減って健康的な筈なのに以前より気力が衰えていると感じます。また救急の場では、スタッフの資質は年々良くなっていると感じるのに、急変時の対応では練度が少し低下しているように感じます。これは自分たちを含め、すべての組織で起きているように感じます。

これらは、対面コミュニケーションで伝わっていた情熱やちょっとしたコツといった informal communication がこの3年間で著明に減少したためだと私は考えています。これらはオンラインでの伝達が難しいと考えられていますが、不可能ではありません。私自身は、オンライン講習会中の小規模グループでのディスカッションで informal communication が成立して、その情報が現場で直ぐ役立つ経験があります。結局オンライン講習(かつ懇親会なし)は普及して間もないため、適切な教授法が確立していないことが問題なのだと思います。今は、オンラインに対応した新しい教授法の確立が望まれますが、氏家理事長の掲げる『質の高い救命医療の教育をしつつも、“明るく、楽しく、わかりやすく”の指導』をしてこられた、NPO 救命おかやまの会員の皆様こそが、それを生み出すにふさわしい存在であると私は期待しています。新しい指導法や運営法を編み出された際には、ぜひ「救命おかやまメソッド」と名付けていただきたいものです(笑)。

コロナの終焉はまだまだ先になりそうです。また「救命おかやまメソッド」もすぐには確立しないでしょう。それまでは小規模な対面のICLS講習会を繰り返すしかありません。そのような地道な活動においても会員の皆様の継続的なお力添えが必要です。2023年におきましても、救命おかやまの活動をご支援いただきますよう、どうかよろしくお願いいたします。

2. ご報告

◆第17回総会・2022 講演会のご報告

(2022年7月23日 於：岡山ブラザホテル & Zoom)

■ 第17回定時総会

理事長：氏家良人 (函館市病院局長)

“NPO 救命おかやま”は2022年6月より17年目を迎えました。2022年7月23日(土)に岡山ブラザホテル「鶴鳴の間」会場とリモート(Zoom)のハイブリットにより、第17回定時総会を開催致しました。議長に理事長氏家が任命され総会議事を進めました。

議題は報告事項として、1) 2021年度会員動向、2) 2021年度事業報告について説明がなされ、審議事項は、1) 2021年度収支決算、2) 2022年度事業計画、3) 2022年度収支予算案などがあげられ、それぞれ協議がなされました。会計はコロナ禍で講習会開催減少による収入減少はありましたが、補助金制度の活用などで補填され、監事からも昨年に引き続ききびしい状況下で運営がなされているが、問題なく会計処理され収支が維持されていることが述べられ承認されました。

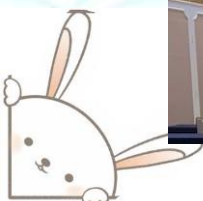
■ 2022 講演会

理事：石井史子 (NPO 救命おかやま)

◇講演：『救急標準化講習 いま・むかし』～「3歳児のモー娘。」から「バーチャルリアリティ活用」まで～
清住哲郎先生 (防衛医科大学校防衛医学講座 教授)

清住先生のお話は期待にたがわない楽しいもので、楽しいだけではなく多くの学びがありました。まさに双方向の見本のような講演で3歳児の脊髓反射?から私たちにはまだまだ縁遠いVRまで多岐に渡ってもっと聞きたいと思いました。スライドにあった「型を知り、型を越えて変わり続けよ」という言葉も心に響きました。先生は以前江田島にいらした時にはJPTECにも積極的に関わっておられてベテラン救命士の皆さまには有名だった事もありリアルに参加された方も予想以上に多く、寂しいかもと事前に心配していたのも杞憂に終わり盛會に終わりました。後の質疑応答も活発で聴いた方が刺激を受けた事が伺われました。zoomも含めてご参加頂いた皆様ありがとうございました。

【講演会】



◆第15回市民のための救命講習会及び2022おかやまマラソンのご報告

【第15回市民のための救命講習会】2022年11月12日（土）於：ジップアリーナ 理事：角南和治（岡山協立病院）

おかやまマラソン前日、市民のための救命講習会が開催されました。マラソン事務局からの呼びかけもあり、マラソンランナー47名を含む68名が受講され、インスト・スタッフ39名とあわせ107名が集まってくれました。長谷川さん（倉敷中央病院）、竹並さん（岡山ろうさい病院）のアイデアたっぷりの進行で明るく、楽しい講習会となり、受講したランナーは全員「救命処置」のステッカーを貼って走ってくれました。救命の輪が広がるとともに、3年ぶりの開催で多くのNPO会員が対面で会うことができ、再始動を実感できた講習会となりました。

【2022 おかやまマラソン】2022年11月13日（日） 理事：木下公久（川崎医療福祉大学）

今年のおかやまマラソンはCPAの発生はなく、全体的に救護対象のランナーが少ない落ち着いた1日で無事終了いたしましたことに安堵しております。例年同様、NPOの会員を中心として構成されたAED班の皆様 NPOの会員総勢67名（統括・統括補佐4名、待機班32名、自転車班22名、フィニッシュ班9名）が、サポーター・ボランティアの方々と共にAED班として救護に参加し、成功裡に無事終了いたしました。AED班として救急処置・対応にお手伝いできたことは誇らしいことです。雨の中ご協力くださった会員の皆様、サポーター・ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。皆様が変わらぬご協力に心から感謝しております。

【第15回市民のための救命講習会】



【2022 おかやまマラソン】





4. 事務局からのご案内

◆ミニ講演：Zoom◆

コロナ禍で活動や交流が乏しくなっている NPO 会員をつなぐ目的で、会員同士によるミニ講演は今年も継続開催予定です。テーマは特定の分野に限定せず、多岐に渡り幅広く企画し、会員の皆さんにもお届けしたいと考えております。メーリングリストで詳細をお知らせ致しますのでお見逃しなく！皆様のご参加をお待ちしております。

『ミニ講演：Zoom 第5弾』1/13 開催決定！！

日時：2023年1月13日(金)19:30～

題名：耳鼻咽喉科救急疾患シリーズ1・・・急性喉頭蓋炎を見逃さないために・・・

講演者：山本英一（NPO 救命おかやま理事・平井耳・鼻・のどクリニック）

『ミニ講演：Zoom 第6弾』4/7 開催決定！！

日時：2023年4月7日(金)19:00～

講演者&：氏平 徹「在宅で行う心不全管理と看取り」（NPO 救命おかやま理事：氏平医院）

題名(仮) 羽井佐 実「在宅医療と退院調整一病院勤務医の立場から」（NPO 救命おかやま理事：川崎医科大学総合医療センター）



◆2023 講演会：受賞記念講演◆ ★2023年7月15日(土)開催予定★

2023 講演会は、厚生労働大臣表彰をいただきました受賞記念講演として開催予定です。NPO 救命おかやま前身の ACLS おかやまの立ち上げから活動拡大に尽力してくれた林峰栄先生、JPTEC の前身の PTCJ、BTLS などを岡山県に導入していただいた石原諭先生のお二人をお招きし講演していただきます。時間、場所の詳細は HP や次回会報、メーリングリストから改めてご案内いたします。楽しみにお待ちください。

場所：岡山ブラザホテル5階「延養の間」

講演者：林 峰栄先生、石原 諭先生

♥会費請求(ご案内) ♥住所・勤務先の変更ご連絡依頼

2022年度は、2022年6月～2023年5月までです。会費のお振込みがまだの方は会費納入をよろしくお願い致します。

住所・勤務先、メールアドレス等の変更はお早めに随時事務局までメール・FAXにてご連絡ください。

【発行元】 特定非営利活動法人 NPO救命おかやま 事務局

〒700-0914 岡山市北区鹿田町1-7-10
電話&FAX：086-226-3999

E-mail：office@kyumeiok.sakura.ne.jp
HPアドレス：http://npo-ok.umin.jp

